巻 頭 言

学会で拝聴した貴重なお話

Valuable Story at the Medical Meeting

山口大学大学院器官病態外科学

濱 野 公 一

Kimikazu Hamano

最近参加した地方会のランチョンセミナーで、元サッカー日本代表監督で、現在、FC 今治のオーナーをされている岡田武史さんの話を聞く機会を得た。国際試合などの大きな試合での裏話が聞けるのではと思い、興味津々で参加し拝聴した。まず、驚いたことは、岡田さんがとてもお話が上手であるということである。1時間余りの講演中、詰まることもなく、流れるように一気に話された。とかくスポーツ選手は、口下手であるようなイメージを持ちがちであるが、岡田さんの話術は、私が言うのも僭越であるが、一級品であった。また、講演の内容もチーム作り、会社運営、人の育て方など貴重なお話ばかりであった。次に驚いたことは、さすが一流の人物だけあって、多くの著名人とお知り合いであり、その方々との貴重な会話を随所に紹介された。たとえば、元京セラ会長の稲森さんや立命館アジア太平洋大学学長の出口さんなどとのやり取りである。

講演の内容は、多岐にわたったが、まず、なぜ今さら地方のサッカーチームを引き受けたのかと言うことである。自由な発想は自由なところからは生まれない、なにも「型」を習得していない人間に自由にやれといってもできるものではなく、「型」をしっかり叩き込んで、その上でそれを飛び出したときに初めて自由な発想が生まれるとの考えを持っておられた。すなわちサッカーで日本人が世界で勝つためにこの「型」というものを浸透させなければならないが、既存のJ1のチームだとこれまでのものを一度潰さないといけない。これにはエネルギーが非常にかかり無駄な労力である。このため何年かかってもゼロから出発したほうがよいとのことで、まったく新しいチームを作り教育することにされたと言われた。すなわちプロチームを作り、ご本人がオーナーとなられたのである。ご本人ははっきりとは言われなかったが、よほど、新しいチームで達成したいことがあるに違いなく、それを達成された暁には、本当の目的に言及されると思われる。医療においてもおおいに参考になる考え方であり、基礎となる知識や技術といった「型」を身につけたうえで、ようやく既存の考えやしがらみに縛られず新しい発想を生み出していくことが可能となるのであろう。

このようにプロスポーツと医療との類似点は多く、われわれが医療を発展させるうえでも、参考になる点が多くあった。岡田さんは、講演の中で、プロのサッカーチームは、物を売る商売ではなく、感動を売る商売であると話された。外科治療においても、われわれは技術で命を救い、技術と同時に感動をも与えており、スポーツと似たような点があると感じた。今回のコロナ禍で人々は世の中にいかに不要不急のものがあるか気づき始め、物の豊かさより心の豊かさを大切にする社会になってきているとのことであった。岡田さんの会社では「多くの人々を笑顔にする、幸せにする」という理念を掲げられているが、利益にならないことを何もかもすると会社が潰れてしまうため、使命や理念の範

圏内で利益もあげなければならないと申された。医療においても無尽蔵にリソースを割けるわけではなく共通点があると思われた。

チームのマネージメントに関しては、業務を管理するのではなく、人材を管理することが大事であると話された。仕事ができる人物を適材適所に配置し、仕事ができる環境を与えておけば、仕事はおのずと遂行されるというものである。また、どのチームや集団にもそりが合わない人物の組み合わせがあるが、そういう存在はごく当然と受け止め、2人の関係には深入りせず、仕事さえ遂行してくれればよしとするとのことであった。人を育てるには、仕事の楽しさを教え、楽しく仕事をさせることがもっとも重要とも話された。

岡田さんはサッカークラブにおけるフィロソフィーを作っておられ、このたびの講演で紹介された。以下に概略を記すが、クラブのみならず企業内、医局、院内など種々の現場にも当てはまると感じた。

1. Enjoy：サッカーを始めたときの喜びを忘れない。子どもの頃は積極的にボールを取りにいったのが大人になるとミスを恐れて守りに入る。しかしそれでうまくなった選手はいない。ミスを恐れず生き生きとプレーを。
2. Our team：自分たち一人一人のチームという意識を持つ。誰かが何とかしてくれる、ではなく自分が何とかしようとする意識を持つ。
3. Do your best：ベストを尽くせ、勝つために努力をしろ、勝つために全力をつくして負けるのはしかたない。努力した先に勝った負けたがあるのではなく、勝つために努力することが重要。
4. Concentration：今できることに集中しろ。ミスを恐れるな。
5. Improve：つねにチャレンジせよ。壁を打ち破れ。スランプはジャンプする前のしゃがんだ状態、より高みにいくための前段階。
6. Communication：お互いを知る。選手とは飲まない、仲人もしない。しかし一人一人を気にかけていることを伝えることが大切。チーム全員が仲良しであれば理想的だが、そうそうあり得ることではない。しかしお互いに認めあうのがチームワークとも言える。

人は、私利私欲ではなく高い志や夢やビジョンをもって必死で努力している人の後ろ姿を見てついていきたいと思うものであるとのことであった。

一方、サッカー選手に関しては、個々人のことはあまり話されなかったが、チーム作りに関しては話された。練習の手抜きや不備を個別に指摘して、修正するのではなく、自然に手抜きができないような全体の雰囲気を作ること、高い目標を選手自身で立てることが大事であると申された。そして、どのようにすれば選手たちが自然と高い目標を設定し、懸命に努力するようになるかその手段を考えることこそ指導者の仕事であるとも申された。

人々に感動を与え、これまでスタジアムがなかった今治に、まず、2千人が入れるスタジアムを造り、今度は5千人入れるスタジアムを40億円で造る予定であるとのことである。たんにサッカーの試合をやるスタジアムではなく、地域の人々が365日集う心の拠り所となる場所を目指し、ここを中心として地域が活性化していくことを考えておられた。このように理念を持って考慮、行動されている岡田さん率いるFC今治は、現在はJ3に属しているが、J2あるいはJ1へ昇格する日も近いと感じた。よき指導者の元には、優秀な人材が集まることを感じ、自らに言い聞かせたしだいであった。